

今回は、「不登校」をテーマに講義とグループワークを行いました。

先月、文部科学省が発表した調査結果により、昨年度、小中学生の不登校は 24 万人 余りと、前の年度から 4 万 9000 人 近く、25% 増えて過去最多を更新し、このうち 小学生が 8 万 1498 人、中学生が 16 万 3442 人 だったと分かりました。

不登校の小中学生の増加は 9 年連続 で、10 年前と比較すると小学生は 3.6 倍、中学生は 1.7 倍に増え、特に中学生は 20 人に 1 人が不登校 となっています。
この増加の一因としてコロナウィルスの影響があったことは間違いないと思いますが、「不登校」になる理由は本当に多種多様で、明確なものから子ども本人も分からないものまで数多くあります。

「不登校」問題において絶対にあってはならないことは、「決めつけ」と「孤立」だと思っています。

② すぐ慣れるから大丈夫!

② 嫌なのは皆一緒だから我慢しなさい

② 不登校のままだと立派な大人になれないよ

② 楽な道ばかり選ぶんじゃないよ

等と一方的に決めつけて対応しても何一つ解決には向かいません。

また、子ども本人やその保護者が、誰にも相談できず世間から冷たい目で見られ続け孤立してしまうと、「不登校」に対してどんどんネガティブになり心身ともに追い詰められる状況に陥ってしまいます。

そこで、今回の研修では、「不登校」に対する決めつけや親子の孤立を招く対応をせず、幅広い視野を持ち親子に寄り添っていく対応ができるように「不登校」について様々な角度から学んでいきました。

劇的な即効性のある対応は出来ませんが、我々はこども職員が「不登校」に対して柔軟で幅の広い知識を持ち親子に寄り添う支援を継続すれば、親子の孤立を防ぎ「不登校」に対する前向きな気持ちを定着させることができると信じています。

